

～愛知県支部 多文化共生事業～ 3人の外国人指導員がついに誕生!



救急法指導員認定証交付式

様々な困難を乗り越えた彼女たちの
合格に感極まる講習担当職員

Contents

クローズアップ

多文化共生事業

～命を救う知識や技術を共に暮らす外国人住民にも伝えたい～

トピックス

愛知県支部 平成29年度予算概要

東日本大震災から6年「私たちは、忘れない。」プロジェクト

名古屋第一赤十字病院が創立80周年

平成28年度 一般社団法人中京馬主協会助成事業

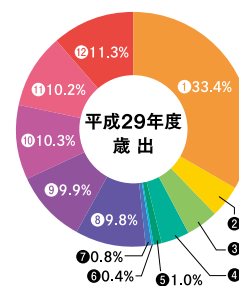
クロスサポーターに聞く!

公益財団法人名古屋国際センター 丹下厚史さん

愛知県支部 平成29年度予算概要

平成29年度における日本赤十字社愛知県支部一般会計歳入歳出予算の概要をご報告します。

歳入	内訳	予算額		歳出	内訳	予算額	
1.	社資収入	1,067,000,000円	90.8%	①	災害救護事業と救護看護師の養成に	392,968,000円	33.4%
2.	補助金及び 交付金収入	4,426,000円	0.4%	②	救急法や健康生活支援講習などの普及に	51,957,000円	4.4%
3.	資産収入・雑収入	18,679,000円	1.6%	③	赤十字ボランティアの活動と育成に	52,368,000円	4.5%
4.	前年度繰越金	84,995,000円	7.2%	④	青少年赤十字の育成と普及に	47,380,000円	4.0%
				⑤	社会福祉事業などに	11,397,000円	1.0%
				⑥	血液事業の普及啓発に	5,140,000円	0.4%
				⑦	国際的な活動に	9,366,000円	0.8%
				⑧	広報・活動資金募集のために	115,165,000円	9.8%
				⑨	赤十字病院救急医療体制の整備に	115,798,000円	9.9%
				⑩	市町村における赤十字活動に	121,551,000円	10.3%
				⑪	全国的な赤十字活動に	119,550,000円	10.2%
				⑫	支部の運営に	132,460,000円	11.3%
計		1,175,100,000円	100.0%	計		1,175,100,000円	100.0%



東日本大震災から6年「私たちは、忘れない。」プロジェクト

日本赤十字社は、昨年に引き続き日本全国で「私たちは、忘れない。」～未来につなげる復興支援プロジェクト～を展開しました。東日本大震災から6年が経過。改めて当時を想起することで、風化を防止し、国民の助け合い・防災、減災意識の向上を促進するこのプロジェクト。愛知県支部でも職員が奉仕団員がバッジを着用し、プロジェクトをPRするほか、3月4日に開催した名古屋グランパスのホームゲームでは、来場者にバッジを配布し、試合前に選手会長の磯村選手、新加入の宮地選手を始め計5名の選手が義援金を募るなど、震災で被災された方々への継続した復興支援をサポーターに呼びかけました。また、3月11日大須万松寺が東日本大震災の追悼とあわせて実施した防災啓蒙催事でも赤十字ブースを展開し、救急法短期講習を実施。参加者にバッジを配布し、防災減災意識を高めてもらいました。

日本赤十字社は、今後も皆さまの想いを被災された方々に届けるとともに、防災力向上のための救急法等の講習普及など、大規模災害を見据えた取り組みを行っていきます。



名古屋グランパスの磯村選手たちによる募金活動の様子



3月11日、人出で賑わう大須商店街で応急手当の方法など救急法短期講習を実施

私たちは、忘れない。
Forever remembered.

名古屋第一赤十字病院が創立80周年

同院は、昭和12年(1937年)4月1日、名古屋市中村区道下町の遊里ヶ池の跡地で、鉄筋コンクリート3階建ての本館、鉄筋コンクリート一部4階建て、木造2階建ての伝染病棟を合わせた100床、医師、看護婦等職員115名の体制で日本赤十字社愛知支部病院として診療を開始しました。

昭和29年(1954年)3月に名古屋第一赤十字病院と改称された後は、施設の増改築等を繰り返し、現在は、総病床数852床を有する地域の基幹病院となりました。

今後も地域の皆さまからのご理解・ご支援に感謝しながら、安心・安全で良質な医療を提供し続けられるよう取り組んでまいります。



昭和12年当時の名古屋第一赤十字病院



当時の玄関が現在の名古屋第一赤十字病院の正面にたずむ

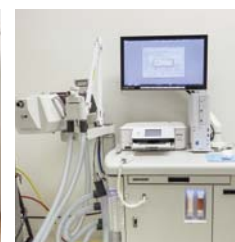
平成28年度 一般社団法人中京馬主協会助成事業

毎年、一般社団法人中京馬主協会さまの助成事業により、名古屋第一赤十字病院および名古屋第二赤十字病院に医療機器の整備をさせていただいております。この助成事業は、馬主の皆さまが「自分たちの手で、目に見える形で社会福祉に貢献したい」と始められたものです。

平成28年度は、次のとおり整備することができました。心より感謝を申し上げます。馬主の皆さまの想いにご厚意に応えられるよう、両病院で有効に活用させていただきます。

名古屋第一赤十字病院 総合呼吸機能検査システム

本機器は呼吸器疾患の診断と重症度・治療効果の判定、更には各種の手術前呼吸機能の評価も行うことができます。またデータ解析速度の向上と、装置を2台体制にできたことは検査件数の増加にもよりスムーズな対応が期待されます。



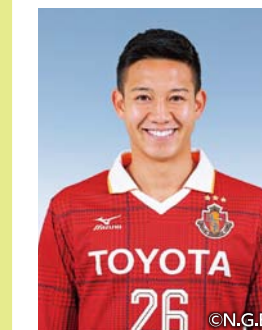
名古屋第二赤十字病院保育器

従来の機器と比較し、新生児への音刺激・温度低下・光刺激などのストレス軽減や安定したポジショニングをサポートすることにより、保育環境が大幅に改善されます。また、新生児ケアに快適な操作性と安全性の向上も図られます。

フロサポ!
特別編 No.8

パートナーシップ協定を結ぶ
名古屋グランパスの選手たちに
「赤十字」について聞きました!

■名古屋グランパス



宮地元貴 選手

(みやちげんき)
●背番号:26
●ポジション:ディフェンス
●年齢:22歳
(1994年4月17日生まれ)

赤十字のイメージは?

日本赤十字社は紛争・災害・病気などで苦しむ人を救うため多くの支援をされている印象があります。僕も自分が出来ることを考えて全力を尽くしたいと思います。

今年の抱負は?

シーズンを通して、ピッチ内外において名古屋グランパスの力になること。J1昇格を成し遂げることです。どのような状況においてもプロフェッショナルでありたいと思っています。一日でも早くピッチでチームの勝利に貢献出来るよう精進して参ります。

多文化共生で一番の課題は、言葉の障壁です。NICでは、名古屋及び周辺地域に在住する外国人住民を対象に、日本語教室を開催しています。1年を通して、大人向けの教室と子ども向けの教室を開催し、平成28年度は年間900名弱の外国人住民が受講しています。また、外国人住民のみを対象にするのではなく、行政をはじめとする公共機関の窓口職員などを対象に「やさしい日本語講座」を実施し、「やさしい日本語」の普及により、外国人住民と日本語でのコミュニケーションの促進を図っています。



「なごや市民総ぐるみ防災訓練」にて、外国人住民と災害語学ボランティアの訓練を毎年実施。

多文化共生のもうひとつの重要な課題は、防災に関することです。自分の命を守るための技術や知識を身につけることはもちろん大切ですが、地域のコミュニティが一体となって命を救う意識を日本人も外国人も向上させる必要があると思っています。そのために、町内会などに加入するケースの少ない外国人が、どのように地域の一員として生活していくのかということが大きな課題です。大規模災害が起きた時や避難所生活を強いられた時、周囲の日本人が少しでも気にかけてくれるだけで、外国人住民の状況や心境は大きく変わるはずです。NICが運営する災害語学ボランティア制度の一層の充実を図るとともに、NICでは様々な関係機関と連携し、こうした課題の解決に向けた取り組みを展開していきます。

赤十字との連携協定について

これまで、阪神淡路大震災や東日本大震災を経験し、外国人住民の防災啓発は大きな課題だったにも関わらず、赤十字は災害救護をはじめ防災の専門的技術を持つ特別な組織というイメージが強く、私を含めて各地域の国際交流協会の職員にとっては、遠く離れた存在だったと思います。今回、愛知県支部が多文化共生事業に取り組み、私たちとともに外国人住民に目を向けてくれたことは、とても嬉しく思いますし、県内の国際交流協会や外国人住民にとって、とても大きな一歩であると感じています。

今後はNICと赤十字が連携し、外国人住民に防災・減災に関する技術や知識を身につけてもらうとともに、昨年誕生した外国人指導員にもご協力いただきながら、外国人住民の防災意識の向上を図りたいと考えています。また、防災分野だけでなく多文化共生社会事業の普及啓発においても、広く一般の皆さまにも同事業への理解を得られるよう赤十字と協働で取り組んでまいります。



クロスサポーターに聞く!

No.21

公益財団法人名古屋国際センター
丹下厚史さん

日本赤十字社愛知県支部とタイアップし様々な活動に取り組む企業や団体、人(クロスサポーターを紹介します。)
今回のクロスサポは、公益財団法人名古屋国際センター 丹下厚史さんです。

愛知県支部では、外国人住民が赤十字事業への参画を通して地域における支援者として活躍し、日本人も外国人もともに安心して暮らすことの出来る多文化共生社会の実現に向け、様々な事業を展開しています。そして今年3月、同事業の更なる発展のため、愛知県支部は公益財団法人名古屋国際センターと多文化共生事業の連携協力に関する協定を締結しました。

名古屋国際センターの取り組みについて

名古屋国際センター、愛称はNIC(ニック)です。NICは地球市民としての意識の醸成と活動の促進・地域における多文化共生の促進を主な柱に、様々な事業を展開しています。外国人住民のサポートだけでなく、日本人住民に世界の状況や様々な国の文化を知ってもらう役割なども担っている施設です。多文化共生社会の実現のためにも、先ずはお互いの文化を理解することは必要不可欠です。そのため、NICでは地域住民の方に国際理解を深めてもらうことを目的に、外国人講師を地域の小中学校などに派遣し、母国の文化や習慣などを紹介する「NIC地球市民教室」の実施などを通して、国際交流・国際理解の取り組みを行っています。

多文化共生社会の実現に向けて

NICが行う多文化共生事業は多岐に渡ります。具体的には、日本語教室の実施や、日本語ボランティアの研修、災害時外国人支援にかかる研修、外国人住民への防災啓発、外国人住民と日本人住民の「顔の見える関係づくり」を図る交流イベント、多言語での情報提供や各種相談事業などが挙げられます。



●5月は赤十字運動月間です！

5月は、赤十字の創立者アンリー・デュナンの生誕や日本赤十字社の創立記念などゆかりの多い月であるため、赤十字運動月間として県民の皆さまに、より赤十字を知っていただく活動を行います。県内各地で赤十字奉仕団による一斉キャンペーンのほか、テレビ塔のレッドライトアップイベントなど、様々な企画を予定。イベントの詳細は、愛知県支部ホームページや公式ツイッターをご確認ください。

●日本赤十字社愛知県支部 採用情報

日本赤十字社愛知県支部事務局、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、愛知県赤十字血液センター及び日本赤十字豊田看護大学で勤務する事務系(総合職)の職員を募集します。

エントリーはこちら▶

応募資格：平成30年3月に4年制大学または大学院を卒業見込みの方
書類受付：平成29年4月10日(月)～5月8日(月)必着
詳しくは日本赤十字社愛知県支部ホームページ採用画面から。
まずはマイナビ2018日本赤十字社にエントリーを！

●2017八事日赤ふれあい祭り&看護フェスティバル

名古屋第二赤十字病院では、「思いを一つに 広げようクローズの輪」をテーマに、今年も八事日赤ふれあい祭り&看護フェスティバルを開催します。子どもから大人まで楽しめるイベントが盛りだくさんです。皆さまのご参加をお待ちしております。

日時:平成29年5月27日(土)10:00～15:00 場所:名古屋第二赤十字病院

●献血受付時間

◆400mL・200mL献血 11:00～18:45

◆成分献血 11:00～18:00

※土曜日は17:00まで

●採血ベッド数 18台

●義援金受付延長のお知らせ

日本赤十字社は、東日本震災及び平成28年熊本地震災害義援金の受付期間を1年間延長することを決定いたしました。引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願い致します。

延長期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

●ボランティアリレー！

このコーナーでは、ボランティアとして活躍する奉仕団をリレー方式で紹介していきます。

南山大学青年赤十字奉仕団

●活動紹介

私たち、南山大学青年赤十字奉仕団は、主に環境、福祉、国際の3つの分野に力を入れて活動しています。具体な取り組みとしては、昭和区民祭りで赤十字ブースを出展し、献血の大切さを知ってもらうために、献血に関するクイズなどで多くの方に献血の大切さを知ってもらったり、例年実施している堀川清掃をきっかけに、熱田区堀川祭りに参加し、組み立てた神輿を引きながら、地元の子どもたちにお菓子を配るなど、地域の方々より良い関係を築きながら活動を行っています。

●私たちのイチオシポイント！

私たちは、学童ボランティアで子供達と交流したり、募金活動を積極的に実施するなど、幅広い活動内容が自慢です。地域おこしボランティアとして岐阜県白川町に定期的に赴き、入念な計画を立て、田植え等の農作業や、お祭りのお手伝いも行っています。地元の方の協力により成り立っていることを実感し、同時に改めて自然にも感謝することができました。

次回は愛知県救急奉仕団へバトンタッチ！

次は「愛知救急奉仕団」の皆さんです。東山公園春祭り等で、救護所を開設されています。同じ、地域イベントにも協力する者としてよろしくお願ひします。

南山大学青年赤十字奉仕団 鈴木美穂委員長

愛知救急奉仕団 池田若穂委員長

ご協力感謝申し上げます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

●株式会社ワークスジャパン様 ●株式会社名古屋銀行様

●合資会社山本屋様 ●株式会社中日イーシー様

赤十字事業は、みなさまからの活動資金のご協力によって、支えられています。みなさまのご協力をお願いいたします。

郵便振替口座 00860-1-732 日本赤十字社愛知県支部

郵便局備え付けの払込取扱票でお手続きください。
ご不明な点は日本赤十字社愛知県支部事務局 企画振興部赤十字会員課まで。
お問合わせ 052-971-1596(直通)

日赤あいち

発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/平成29年4月1日

〒461-8561 名古屋市東区白壁1-50 TEL052-971-1591(代表)

日赤愛知

検索

ホームページで www.aichi.jrc.or.jp

CLOSE UP

命を救う知識や技術を共に暮らす外国人住民に伝えたい

外国人指導員がついに誕生

クローズアップ

インドネシア出身 小川 二ア 指導員

指導員検定に合格したことを聞いたときは、あまりの嬉しさに家族と抱き合って喜びました。私も、災害時通訳ボランティアとして赤十字救急法の短期講習を受講して、自分や家族の命を守るために赤十字救急法の知識や技術をもっと知りたいと思いました。救急法指導員講習を勧められたときは、覚えるだけでも大変だった救急法を誰かに指導するなんて、とても無理だと思いました。でも、周りに住む家族や友人の命を救うためなら、日本語という壁を乗り越えて頑張りたいと、一生懸命勉強しました。これからも、たくさん失敗して、くじける事もあると思いますが、赤十字の方とともに命を守ることの大切さを多くの人に伝えていきたいです。

指導員要請講習会の様子

とよはしインターナショナルフェスティバルで、母国語で通訳しながら、心肺蘇生を実践

ブラジル出身 杉尾 三恵子 指導員

私は、災害時通訳ボランティアをはじめたのがきっかけで、赤十字の救急法講習を知りました。救急法指導員を目指してからは、難しい日本語や漢字も勉強しました。今回、救急法指導員になって、とても嬉しく思っています。私は、ポルトガル語以外でも簡単なスペイン語、英語、そして日本語なら話すことが出来ます。この語学力を活かして、周りの外国人住民に赤十字救急法を広め、近くの人を命を救えるように役立ちたいと思います。そして、これからも赤十字の方からの支援を頂きながら、防災・減災にかかる知識や技術を身につけていきたいです。

とよはしインターナショナルフェスティバルで、日本人指導員の言葉をポルトガル語で通訳

パラグアイ出身 谷口 君子 指導員

指導員になるために、難しい日本語をインターネットで調べたり、三角巾を使ったケガの手当の仕方など実技の練習もたくさんしてきました。周りの人たちの支えもあり、今回指導員になることが出来てとてもうれしく思っています。日本に住む外国人住民の多くは、防災・減災の知識がなかったり、赤十字の講習があることすら知らない方もいるかと思ひます。今後は、日本語が分からない外国人住民にも、スペイン語やポルトガル語で通訳しながら、赤十字の救急法を広めていけるよう頑張りたいと思います。

指導員を目指す仲間と共に、言葉の壁を乗り越え、命を守るための技術を一生懸命学びました

多文化共生事業の更なる発展に向け関係機関と連携を強化

愛知県支部では、多文化共生事業の更なる展開に向け、平成29年3月1日に公益財団法人名古屋国際センターと多文化共生事業の連携協力に関する協定を締結。名古屋国際センターが実施する災害語学ボランティアの研修で、赤十字の救急法短期講習を取り入れるなど、防災分野を皮切りに多文化共生社会の実現のため連携の強化を図ります。

また、東三河地域では、豊橋市国際交流協会と連携し、赤十字事業を通じて外国人住民における防災意識の向上を図るとともに、新たな外国人ボランティアの養成や外国人指導員が活躍できる環境づくりに取り組んでいきます。

公益財団法人 名古屋国際センターとの協定調印式の様子

豊橋市国際交流協会のみなさん

平成28年熊本地震災害でも見えた課題

災害が起きた時、日本語がうまく話せない外国人住民の方にとっては、言葉の障壁から情報が伝わりにくく、助けを求める術さえ分からない状況になることがあります。昨年起きた平成28年熊本地震災害では、外国人旅行者が熊本から避難したくても交通情報が分からなかったり、また、外国人住民の中には、避難所へ行ったものの、日本語で示される案内が分からず、ストレスを感じて退去するケースもありました。熊本県内の外国人住民は約1万人。それに比べ、愛知県内には約22万人の外国人住民が暮らしていることに加え、大規模災害の発生が予測されているこの地域においては、災害時の外国人支援に向けた取り組みの充実が急務となっています。

愛知県支部が取り組む、「やさしい日本語」を活用した講習会や、外国人住民を対象とした救急法救急員養成講習の様子

愛知県は、外国人住民数が約22万人、外国人住民比率が全国2位と、多くの外国人住民が暮らしています。外国人住民は、災害時において、言語や文化の違いなどから困難を抱えるケースが多くあります。日本赤十字社愛知県支部では、外国人住民が赤十字事業への参画を通して地域における支援者として活躍できるよう、活動の場の提供やボランティア養成に取り組んでいます。

愛知県支部では、日本人住民にも外国人住民にも応急手当の方法を指導できるボランティア指導員の養成を進めてきましたが、昨年12月には、全国で初めて3名の外国人指導員が誕生しました。